



# 十津川村立十津川中学校 学校だより 11月

令和5年11月24日  
文責 前木伸一

## ～ 感謝の心を育てよう ～

昨日11月23日は「勤労感謝の日」、今年最後の祝日でした。「国民の祝日に関する法律」では「勤労をたっとび、生産を祝い、国民がたがいに感謝しあう日」と書かれています。この「勤労感謝の日」、元々は「新嘗（にいなめ）祭」という祭日で、「その年の収穫に感謝して、とれたお米などの穀物を神様にお供えし、来年の豊作を願う日」でした。現在も11月23日には各地でお祭りが行われています。

「感謝」については、祝日が制定されたときに「国民が毎日生活を続けていられるのは、お互いがお互いを助け合っているからである。従って、ここにいる感謝というのは、すべての人がすべての生産とすべての働きとに感謝し合うのでなければならない。この感謝の心もち、今日のような世相のけわしい時には最も必要なものであるが、世の中が落ち着いた時にも常に大切なものである」と説明されています。

私たちは常に誰かの力を借りて生活しています。「感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく。」という言葉もあります。世のため、人のため、自分のためにも感謝の心を大切にしたいものです。



## ～ 第63回奈良県道徳教育研究大会 本校で開催 ～

11月10日（金）、本校で標記の大会が開催されました。十津川村で開催されるのは初めてのこと、生徒・教職員にとっても貴重な機会となりました。当日は、マタニティマークについての課題を通し、「よりよい社会の実現」について考える3年生の授業を県内の先生方に参観してもらいました。積極的で真剣に考え発表する3年生の学習態度に、約2年間の研究の成果を確認させてもらいました。



道徳は令和元年から「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目標に「特別の教科」として位置づけられました。今回の授業中に「道徳に正解はないよ」とある生徒が発言しました。その通りです。道徳で大切なことは、「考えること」、「議論すること」です。自分の生活や生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自分のよりよい生き方を考えていくことです。

十津川村の先人は「人情」を大切にしてきました。生徒の皆さんには、道徳の授業や日々の生活の中で、人間としてよりよく生きようとする「道徳性」をしっかり育ててほしいです。

## 🍆 全校集会でのお話 ピーマンから学ぶ 🍆

○夏の野菜ピーマンが長い期間収穫できるのは？

ピーマンに限らず野菜の成長には、初期成育を助ける元肥（もとごえ）が大切です。人間に置き換えると、中学生までの間に知・徳・体の栄養（力）をできるだけ多く吸収することが大切だと思います。

○ピーマンはなぜあの形？

ピーマンは厚い果皮と空洞（空気）で、夏の暑さから種子を守っています。皆さんも今は家族や地域から守られて生活しています。しかし、十津川の中学生は、中学校卒業後から親元を離れる場合も多く、できるだけ早く自立の力を育てておくことが大切です。中学生の間にしっかりとその力を育ててください。